

【樹木の部屋】

キンシバイ（オトギリソウ科オトギリソウ属 *Hypericum patulum*）

和名：キンシバイ（金糸梅） **別名**：ヒペリカム、クサヤマブキ（草山吹）

英名：Tall St. John's wort

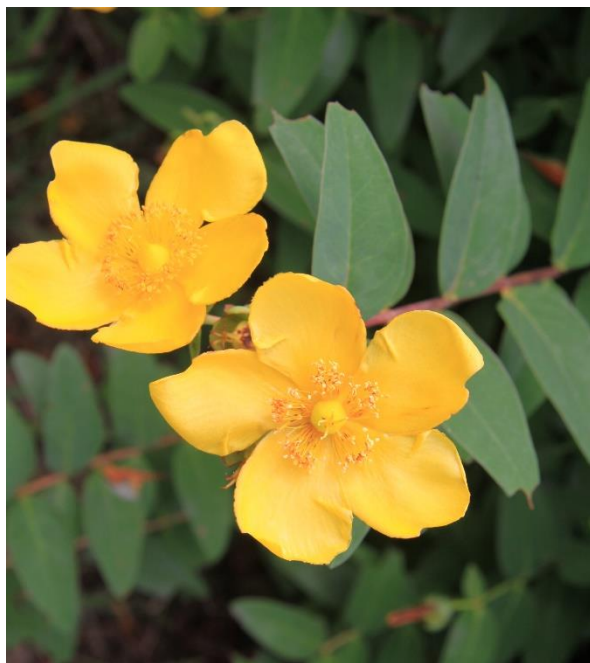
キントラノオ目 半落葉低木 **原産地**：中国

花言葉：きらめき、悲しみをとめる、秘密、太陽の輝き **花の色**：黄



← 写真-1 キンシバイの樹姿
撮影日：2015年06月20日
撮影場所：大和民族公園
（大和郡山市）にて
撮影者：M さん

→ 写真-2 キンシバイの花
撮影日：2015年06月20日
撮影場所：大和民族公園
（大和郡山市）にて
撮影者：M さん



矢田寺のアジサイ観賞に出かけた帰路、立ち寄った近くの大和民族公園内で見かけました。花の盛りは過ぎたようで、花ガラも多く・・・それでも鮮やかに、目に入ってきました。

中国原産で江戸時代に渡来。梅に似ている黄色の花を咲かせるので金糸梅と呼ばれているようですが、梅とは関係ありません。

姿が似ているビョウヤナギと混同されることがありますが、開花期は簡単に見分けることができます。

キンシバイ (*Hypericum patulum*) は、花弁がカップ状に咲き、雄蕊は雌蕊より短く、花弁と同じ程度の長さで独特の姿をしています。葉は対生に付きます。

ビョウヤナギは花弁が大きく開き、雌蕊より長いく、花弁よりも長い雄蕊が

目立ちます。葉は十字対生に付きます。

キンシバイのことをヒペリカム (Hypericum) と呼ぶことも多いそうですが、ヒペリカムは、オトギリソウ属のラテン名で、必ずしも本種とは限らないようです。

剪定ですが・・・。

キンシバイは春に枝が伸びた後に花芽をつくります。

株をコンパクトにまとめたい場合は、地際から 20～30cm ぐらいの高さで刈り込み、大きく育てる場合は、樹形を整える程度に浅く刈り込み、枯れ枝や花がつかなくなった古枝を基部から切り除きます。

剪定時期は花が咲き終わった後の 9 月以降に行なうのが安全です。翌年 1 月に入ってから遅めの剪定だと、花芽を切ってしまう可能性があるためです。冬なら花芽はないので刈り込みも可能。強剪定にも耐えます。込み合っていたら古枝を根元から透かすのも・・・。周りに余裕があれば自然樹形のまま放任しても構いません。

< ちょっと一言 >

大和民俗公園は、26.6ha の広大な敷地を有する都市公園で、自然との共生の場「里山」を活かしながら「みんぱく梅林」「みんぱくしょうぶ園」のほか四季折々の草花や、森林浴・ウォーキングなども楽しめるそうです。

また、公園内には江戸時代の民家15棟を「町屋」「国中（奈良盆地）」「宇陀・東山」「吉野」の4ブロックに分けて移築復原しており自由に見学できます。

～大和民俗公園 HP より